

平成 14 年 10 月 31 日

国際石油開発(株)(インペックス)  
東京都渋谷区恵比寿 4 丁目 1 番 18 号  
代表取締役社長 松尾 邦彦

インドネシア共和国チモール海マセラ鉱区において天然ガスを胚胎する大規模構造を確認

国際石油開発株式会社(インペックス)は、同社子会社インペックスマセラアラフラ海石油(株)を通じてオペレーターとして探鉱事業を推進しているインドネシア共和国チモール海マセラ鉱区において、2000 年 12 月試掘第 1 井によりガスとコンデンセートの産出を確認したアバディ構造において、本年 3 月から 10 月にかけて評価第 1 井「アバディ 2 号(Abadi-2)」及び評価第 2 井「アバディ 3 号(Abadi-3)」を連続して掘削した結果、アバディ構造が天然ガスとコンデンセートを胚胎する大規模な集ガス構造であることを確認した。

なお、これらの評価井で産出テストを実施した結果、アバディ 2 号井では、日産 1,860 万立方フィートの天然ガス(原油換算 3,200 バレル)と日産 150 バレルのコンデンセートを産出し、アバディ 3 号井では、日産 1,380 万立方フィートの天然ガス(同 2,400 バレル)と日産 266 バレルのコンデンセートの産出に成功した。本産出レートは作業上の制約により抑えた数字となっている。

アバディ 2 号及びアバディ 3 号は、2000 年 12 月に同国チモール海域で初めて天然ガスを発見した試掘第 1 井「アバディ 1 号(Abadi-1)」から各々 13.5km、16.5km 離れた地点に掘削され、両井において天然ガスの産出を確認したことにより、アバディ構造の拡がりは約 700k m<sup>2</sup>に及ぶと見込まれる。(これは東京都 23 区を上回り、琵琶湖に匹敵する大きさである。)

同構造の可採埋蔵量は今後の更なる評価作業を通じ確定されるが、これまでの試掘・評価井 3 坑の成功により、アバディ構造は LNG を含む様々な商業開発のシナリオの検討を可能にするに足る規模の埋蔵量を有すると見込まれる。

※) 補足説明

1.マセラ鉱区は、インドネシア共和国 東ヌサテンガラ州 西チモール、クパン市の東方約 800km、オーストラリア北部準州ダーウィン市の北方約 400km に位置し、鉱区面積 5,725k m<sup>2</sup>、水深 300~1,000m のチモール海インドネシア領域にある海上鉱区である。本鉱区の南縁部はインドネシア、オーストラリアの両国間で合意されている国境線に接している。

2.試掘第1井「アバディ1号」は、2000年10月より同鉱区中央部水深457mの地点に掘削され、掘削深度4,230mにて掘り止めた後、産出テストを実施し、64分の40インチチョークで日産2,500万立方フィートの天然ガス並びに日産260バーレルのコンデンセートの産出を確認した。

3.評価第1井「アバディ2号」は、2002年3月より、アバディ1号井から北東に13.5km離れた、水深580mの地点に掘削され、掘削深度3,986mで掘り止めた後、産出テストを実施し、64分の44インチチョークで日産1,860万立方フィートの天然ガス並びに日産150バーレルのコンデンセートの産出を確認した。

4.評価第2井「アバディ3号」は、「アバディ2号」に引き続き2002年7月より、アバディ1号井から南西に16.5km離れた、水深423mの地点に掘削され、掘削深度4,032mで掘り止めた後、産出テストを実施し、64分の44インチチョークで日産1,380万立方フィートの天然ガス並びに日産266バーレルのコンデンセートの産出を確認した。

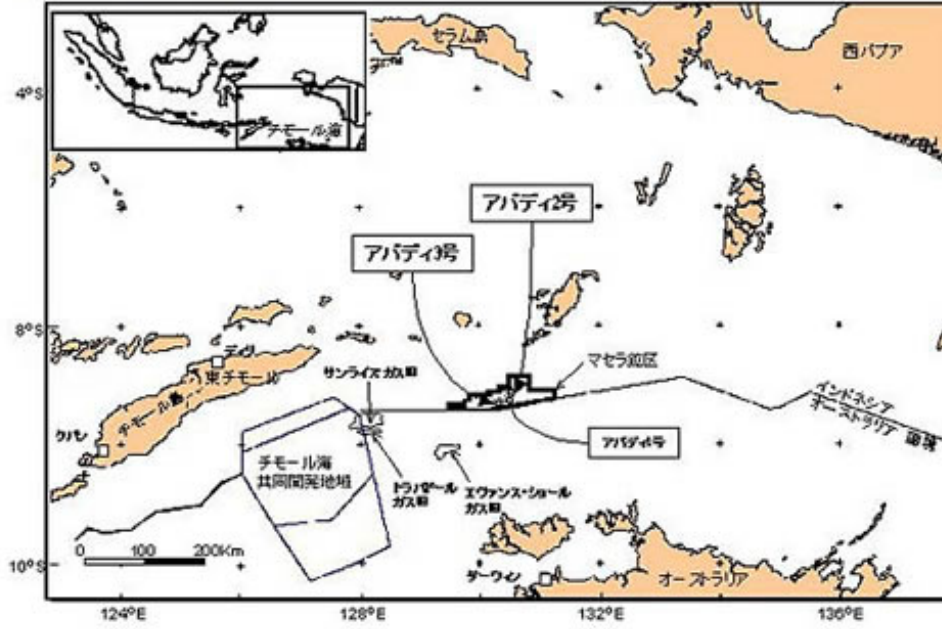
5.今後の作業としては、可採埋蔵量の確定をはじめ、商業化に向けた各種スタディ及び調査・検討作業を推進していく予定。

6.国際石油開発(株)は国際入札の結果、1998年11月、インドネシア共和国国営石油会社プルタミナ(現BPMIGAS)と生産分与契約を締結し、本鉱区の100%の参加権益を取得し、オペレーターとして本プロジェクトを推進するため、同年12月インペックスマセラアラフラ海石油(株)(英文名:INPEX MASELA, LTD.)を設立し、石油公団の出資を受けている。(現在の資本金は、113億6,400万円、出資比率は、当社51.98%、石油公団48.02%)

**INPEX**

国際石油開発

インペックスマセラアラフラ海石油



インドネシア共和国チモール海 マセラ領域  
評価井アバディ2号 (Abadi-2) およびアバディ3号 (Abadi-3) 掘削位置